

『ハンターハンター』におけるジェンダーとセクシュアリティ

文芸学部 マリエヌー・リルー

指導教員 奥 彩子教授(2024年度後期)

吉澤 弥生教授(2025年度前期)

1. はじめに

『ハンターハンター』という少年マンガが冨樫義博¹先生によって書かれている。「週刊少年ジャンプ」²の中で、1998年3月から連載されるし、現在も冨樫先生の病気のため、続いている。『ハンターハンター』のマンガは二つアニメのバージョンがある。最初が1999年で、2番が2011年だ。1999年のバージョンのシーズンが四つで、2011年ののが六つある。『ハンターハンター』の初めに、ゴンという主人公はお父さんを見つけるために、ハンター試験——ハンターは『ハンターハンター』の世界で特別な仕事だということだ——を受けている。なぜならば、ゴンのお父さんはハンターなので、自分でハンターになると、見つけることは簡単になると考えたからだ。その試験を受けてから、いろいろな人に会話し、冒険を始めている。

まず、「ジェンダー」とは何なのだろうか。「ジェンダー」とは「セックス」と違っている。「セックス」とは、生物学的な特徴ということだ。「ジェンダー」とは、社会的属性を社会化される過程において学習されるということだ。例えば、男性らしさや女性らしさに関する行為や関係などは社会的と文化的に構築される。「ジェンダー」の中で、「ジェンダー関係」や「ジェンダー・アイデンティティ」や「ジェンダー表現」などある。まず、「ジェンダー関係」とは男性と女性の間の力や支配などということだ。つまり、社会的関係だ。「ジェンダー・アイデンティティ」や「ジェンダー表現」の名前は似ているかもしれないが、意味が違っている。「ジェンダー・アイデンティティ」とは、人は女性か男性か他のジェンダーかだということだ。「ジェンダー表現」とは、特別なジェンダーの格好や行為などに関する表現だということだ。例えば、女性らしい行為だということだ。したがって、人が男性でも、女性らしい格好をしているので、その人の「ジェンダー・アイデンティティ」や「ジェンダー表現」が違っている。また、「セクシュアリティ」とは性的指向だということだ。

その定義を見ると、『ハンターハンター』の主題はジェンダーではないと考えられるが以前の作品を見ると、冨樫先生のジェンダーへの興味が分かる。最初のマンガの表象はステレオタイプだそうだが、そのテーマに関して書いており、書き方を上達したと述べられる。一つ理由はおそらく、自分の妻のLGBTQIA+の書き方を見ると、冨樫先生がよく分かった。妻はよいLGBTQIA+の表象がある『美少女戦士セーラームーン』というマンガを書いた武内直子先生³だからだ。また、ジェンダーだけではなく、冨樫先生が他の重要なテーマについて書いている。例えば、少年愛嗜好を批判するシーンがある。『ハンターハンター』の中で、LGBTQIA+のテーマは直接に述べられずに仄めかされている。そのため、確認されないので、そのレポートの取り上げられた点のほとんどは論理的な点だ。

また、同性愛かトランスジェンダーについて、表象は社会に影響しているので、重要だと考える。ステレオタイプの表象はマイノリティーに対して、偏見を持っているからだ。その上、表象がなければ、そのマイノリティーが社

¹ 1966年4月27日に生まれた冨樫義博は漫画家だ。『幽☆遊☆白書』や『ハンターハンター』や『レベルE』などを書いた。

² 「週刊少年ジャンプ」(や「少年ジャンプ」や「ジャンプ」など)とは集英社から発行されている少年向け漫画雑誌である。毎週月曜日に発売されている。

³ 1967年3月15日に生まれた武内直子は有名な漫画家だ。1993年に、『美少女戦士セーラームーン』というマンガのため、「講談社漫画賞」を受けた。

会にあまり受け入れられない。すなわち、さらにマイノリティはよい表象があると、関心がある人が早く自分を受け入れるし、社会的にも受け入れることができる。

そのレポートでは、同性愛が仄めかされる理由を説明し、『ハンターハンター』における同性愛について話したいと考える。そして、例えば、女性と男性のステレオタイプや「ファンサービス」などを見ると、男性らしさと女性らしさの書き方を分析する予定だ。最後は、「ジェンダーアイデンティティ」と「ジェンダー表現」の表象をどう取られるかについて考える。

2. 同性愛

(a) 同性愛が仄めかされる理由

作品を見ると、LGBTQIA+の主題はまれに直接に書かれずと述べられる。社会や時代によると、LGBTQIA+における作品や場所は制限がつけられ、隠されている。例えば、フランスでは、LGBTQIA+の権利が日本より、進んでいるので、フランスの作品の中で、LGBTQIA+のキャラクターがさらに明確だ。というのは、LGBTQIA+の権利があまり進んでいない国では、明確な同性愛を書くことは難しいかもしれないからだ。特に、LGBTQIA+のコミュニティのためだけに書きたくないからだ。また、よい表象が重要だと考える。当然に、意識を広めるために、同性愛の障害を示す作品は重要だが、感情の進化や前向きな愛を示すのも同様に重要だと考える。T.J.クルーン⁴ (2025)という作家によると、陽性な表象が重要だ。

‘Being queer himself, TJ believes it’s important—now more than ever—to have accurate, positive, queer representation in stories.’⁵

Seisaku Hakusho ("The Production Report") Part 2 By Yoshihiro Togashi

The legendary manga of mine that never saw the light of day was called **Trouble Quartet**. It got rejected because, simply put, it wasn't interesting. Objectively speaking, that is. Personally, I really liked it. It was a weird sports manga with homosexual characters and cross-dressing (I may have turned off a lot of Weekly Shonen Jump readers just by explaining this much of the story).

I wrote the script based on my own personal interest, and was satisfied with it, but I couldn't work it up to a level where it would be commercially successful. Still, I grew deeply attached to it. I hope that one day, once I built a name for myself as a writer, I will see the day when this title is published in a different form.

To be continued on page 136! I'll unveil the main character of **Trouble Quartet**, Gen Otsuda!

例えば、同性愛がある『アーケイン』⁶というフランスのシリーズはまったく同性愛の主題ではないが、気持ちはどう進める同性愛がある。社会や時代によると、LGBTQIA+の作品や場所は制限がつけられ、隠されていると述べられる。80年代、富樫先生によって書かれた『Trouble Quartet』というマンガは興味深くないそうなので、「ジャンプ」に連載されなかった。『幽☆遊☆白書』の上巻の中で、富樫先生は『Trouble Quartet』は同性愛とクロスドレッシング⁷についてのマンガなので、一般的「ジャンプ」の読者に嫌がられる可能性と説明した。その言葉は、もしLGBTQIA+のコミュニティだけに向けたマンガではないなら、仄めかす表象を使えることが必要だと表している。そればかりか、『Trouble Quartet』を書いた理由が自分の興味だったからだとして述べたので、富樫先生はLGBTQIA+のテーマに関心があることが確認できた。

富樫義博 1991『幽☆遊☆白書』週刊少年ジャンプ、上巻

つまり、その例を見ると、社会や時代によると、LGBTQIA+のキャラクターは明確で書かれずかもしれない。80年代、富樫先生は明確な表象を書けなかったため、現在では、考えが変化したかもしれないが、『ハンターハンター』が発刊されるために、仄めかす表象の方が安全かもしれない。

⁴1982年5月20日に生まれたT.J.クルーン(T.J. Klune)はアメリカ人の作家だ。クィアの男なので、LGBTQIA+の話をよく書いた。

⁵Daryl M. 2025 "Interview with an author: T.J. Klune" Los Angeles Public library <https://www.lapl.org/collections-resources/blogs/lapl/interview-author-tj-klune-1>, (参照2025-06-15)

⁶Fortiche 2021~2024 "Arcane" Netflix. 『アーケイン』とはフランスの「Fortiche」というアニメスタジオから作られたアニメである。『リーグ・オブ・レジェンド』のキャラクターを使って、Netflixで公開された。

⁷クロスドレッシングとは社会的に異性の服を身に着けるということだ。

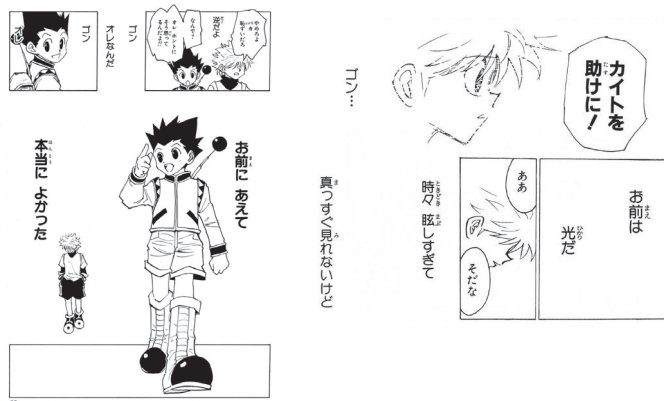
(b)『ハンターハンター』における同性愛

『ハンターハンター』の主題は恋愛ではなくても、ときどき恋愛関係が分かる。例えば、メルエムとコムギの恋愛は恋人の見た目に興味がない恋愛の話だと考える。痛ましい異性愛だ。しかし、同性愛の話はそうに明らかなではない。さらに仄めかされている恋愛だと考える。ゴンという主人公と親友のキルアはときどき同性愛を仄めかされている。特にキルアの気持ちと行動だ。気持ちや恋愛などは一回でも確認されなくても、いろいろな興味深い時が見つけられる。

まず、第286章では、ゴンと死ぬ可能性について話した時、キルアは「最悪心中だな」と述べた。すなわち、ゴンとキルアと一緒に自殺する可能性だ。ただし、使われた言葉は特別な意味だ。「心中」は恋愛の話で、カップルと一緒に自殺するということだ。その言い方はゴンについて、キルアの気持ちを明かすと考ええる。



富樫義博 2008 『ハンターハンター』 週刊少年ジャンプ, 第286章



第199章では、キルアが「ゴン・・・お前は光だ。時々眩しすぎて真つすぐ見れないけど」と述べた。また、第131章では、「ゴンおれお前にあえて本当によかった」と述べた。その言葉を読むと、キルアにとってゴンの重要さが分かる。

富樫義博 2003 『ハンターハンター』 週刊少年ジャンプ, 第199章

富樫義博

2001 『ハンターハンター』 週刊少年ジャンプ, 第131章

最後、『ハンターハンター』のアニメのエピソードの後で『ハンサイクロペディア』というおまけがある。他の名前には『ハンターディア』と『ゴンとキルアのハンサイクロペディア』だ。つまり、そのおまけの中で、ゴンとキルアと一緒に『ハンターハンター』の世界について情報を教えている。二つのエピソードの中で、興味深いシーンがある。最初、ゴンとキルアのキスシーンがある。そのエピソードで、他のキャラクターのパワーを説明するために、そうした。キャラクターのパワーは人にキスすると、その人が使える。それで、パワーの説明のためだけか、パワーの説明がよい口実か、分からない。次は相合傘のイメージだ。二宮ゆみ(2022)によると、相合傘とは「男女の仲を示すいたずら書きの一種。簡単な線書きの傘の柄の両側に二人の名前を書くもの。」だということだ。ドラマや少女マンガなどで恋愛の話がある時に、よく使われることだ。『ハンサイクロペディア』の中にゴンとキルアの名前が描かれている絵がある。ゴンとキルアの愛のようなシーンのほとんどに理由が見出せる。偶然しかではないシーンかもしれない。それでも、色々なシーンがあるので、疑わないことは難しいと考える。



キス: 富樫義博 2012 『ハンターハンター』 Madhouse, 第43話

相合傘: 富樫義博 2012 『ハンターハンター』 Madhouse, 第46話

また、他の可能なカップルが存在している。イルミとヒソカは二人の男性だ。第377章では、イルミはヒソカについて話した時、「婚前契約」という言葉を使った。漢字の右に、「エンゲージメントリング」というふりがなを入れた。イルミの言葉を見ると、ヒソカと結婚したと分かる。富樫先生はふりがなを入れたことは、読者が言葉が間違えない

ためにかもしれない。その結婚は晴れて、仕事のためだが、あまり分からない。なぜならば、その2人はしばしば一緒に、職業的な関係より友達かカップルかのようなのだ。



富樫義博 2018 『ハンターハンター』 週刊少年ジャンプ, 第377章

つまり、確かに、『ハンターハンター』における同性愛を確認できなくても、富樫先生が同性愛を書くことの希望が分かったと考える。社会の考え方や点を読者の解釈に委ねることなどがあるので、確認されないかもしれないが、仄めかすための方法を見つけた。

3. 男性らしさと女性らしさの書き方

(a) 女性の表象

映画文化の中で、女性のキャラクターは男性の陰に置かれる。女性の役は男性を強調できるし、恋愛の話かエロのシーンを見せられる。その女性像は他のマンガの中で多いかもしれない。例えば、「萌えキャラクター」という可憐な美少女だ。バッド・ベティカー⁸という映像作家は「重要なことは、女性のヒロが何を引き起こすかや何を象徴するかだ。……女自身は少しも重要ではない。」と批判した。

「What counts is what the heroine provokes, or rather what she represents. She is the one, or rather the love or fear she inspires in the hero, or else the concern he feels for her, who makes him act the way he does. In herself the woman has not the slightest importance.」

映画文化の中で、ジェンダーの表象の分析が多く、特に「メール・ゲイズ」(malegaze)という用語の使いのためだ。『Visual Pleasure and Narrative cinema』⁹(1975年)の中で、ローラ・マルヴィ¹⁰は「映画の中の女性像が男性観賞者や男性監督の視線に対する奉仕者として表現されると論じている」と説明するし、その用語を流行らせている。男性の目の視点は三つある。カメラの後ろにいる男性の目と、男性のキャラクターの目と、観客の目だ。すなわち、大半の見るコンテンツは男性のため男性によって作られた。

その意見を使えば、富樫先生が書いた女性の表象はよいと考える。なぜならば、いろいろな他のマンガほど、「ファンサービス」が少なく、『ハンターハンター』の女性の表象は多様だからだ。また、ストーリーについて重要なキャラクターだと考える。「ファンサービス」とは特に男性向けのアニメの中で、女性のキャラクターが性的に見られているシーンだということだ。例えば、お風呂のシーンやチラッと見えるパンティーのシーンが多い。そのシーンは現実と地続きになる可能性が高いので、危ない。¹¹また、「ファンサービス」は「メール・ゲイズ」と同じ考え方もしれないと考える。

まず、幻影旅団の女性を紹介したいと考える。幻影旅団は『ハンターハンター』の1番敵対者かもしれない。幻影旅団 — かクモ — は13人ほどの泥棒の団体だ。その13人の中で、3人はパクノダとマチとシズクという女性だ。その女性の存在は悩める女の子のステレオタイプを防いでいると考える。

⁸ バッド・ベティカー(Budd Boetticher, 1916年7月29日～2001年11月29日)はアメリカの映像作家だ。例えば、1951年に、『美女と闘牛士』(Bullfighter and the Lady)を作った。

⁹ Laura Mulvey 1975 “Visual Pleasure and Narrative cinema”, Screen

¹⁰ 1941年に生まれたローラ・マルヴィ(Mulvey, Laura)はイギリスのフェミニスト映画批評家・理論家だ。

¹¹ 須川亜紀子 2019 「アニメーション文化55のキーワード」『世界文化シリーズ』, ミネルヴァ書房, p.116-119.



¹² パクノダという女性のキャラクターについて、最初に目が行くことは見た目で、特に鼻だ。パクノダの顔は女性に対する美意識と違っている。鼻は西洋のステレオタイプに逆らうので、ファンダムの反応を誘っている。SNSでは、富樫先生がパクノダを書いた時、醜い女だと考えたが、結局美しいと述べた人びとを見たが、私の意見で、富樫先生がそのようなことを考えたことがない。というのは、『ハンターハンター』の中で、パクノダが醜い女のことは一回でも仄めかされなかったからだ。実は、非常に逆だと考える。他のキャラクターはカリスマチックな女だと考えるかもしれないからだ。そのポイントが興味深いと考える。なぜならば、その人は自分の考えを表しているかもしれないからだ。つまり、もしその鼻のタイプを見る時、最初に「醜い」と考えたことは、その人

の本当の考えだろうか。それでも、その考えがあっても、パクノダが美しいと考えているので、思わずその美意識が馬鹿らしいことを表している。その表象のタイプは社会向けのメッセージを発している。女性が物理的なクライテリアに賛成しなくても、美しい。また、パクノダの服はデコルテを見せていても、特に性的な服ではない。というのは、そのデコルテを見せる映像が見えずに、服が他のキャラクターに訴えられたことがないからだ。それで、女性がセクシーな格好を持っていることは、たくさん性的にシーンのための理由ではない。その上で、『ハンターハンター』の中で、ときどき女性も男性も性的な表象があるので、女性だけに対する行動ではない。

マチというキャラクターの顔が女性的な顔なのに、マチの行動は俺女のような行動だと考える。例えば、幻影旅団の幼年時代が見せている第396章の中で、メンバーは演劇をしており、マチが悪役を欲しかったので、お姫様役を断った。そして、マチは幻影旅団の重要なメンバーだ。例えば、マチはクロロというボスに勘を信じられている。また、ヒソカというキャラクターはマチのパワーを信じているので、そのパワーに任せている。マチの体力も強いと考える。なぜならば、幻影旅団の腕相撲ランキングで、全員が強いのに、マチがよい位置(6番)を持っている。マチは女性的な資質も男性的な資質も持っている。例えば、勘は女性的で、俺女の性格もある。マチは勘のお陰で、頼もしいキャラクターで、パワーや体力のお陰で、強いキャラクターだ。そのような表象は — 女性が残らず男性的ではなくても、強くなれる — 重要だと考える。というのは、そのような表象は社会向けのメッセージを発しているからだ。



左: 富樫義博 2011 『ハンターハンター』 週刊少年ジャンプ, 第97章
右: 富樫義博 2022 『ハンターハンター』 週刊少年ジャンプ, 第396章

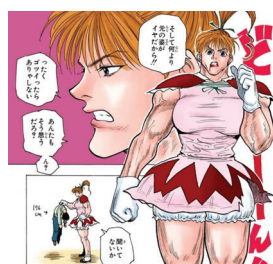


¹³ シズクは消極的な人だ。常に平気な行動をしているので、敵に弱い人だと考えられる。しかし、強いキャラクターだ。主人公のゴンと腕相撲をした時、2人の骨が折れて、結局、負けた。ただし、シズクの利き腕は左腕だが、右の腕を使ったので、もし左の腕を使ったなら、勝つかも说不定。そのシーンはシズクの腕力を確認したと考える。

¹² パクノダのイメージ: 富樫義博 2001 『ハンターハンター』 週刊少年ジャンプ, 第112章
¹³ シズクのイメージ: 富樫義博 2000 『ハンターハンター』 週刊少年ジャンプ, 第104章

しかし、マチとシズクのパワーは女性的なクリシェかもしれない。マチが糸と戦って、シズクが掃除機と戦っている。裁縫と掃除が二つ女性的なクリシェだろう。富樫先生がクリシェを使うし、強いキャラクターを書くし、クリシェはクリシェだということを表すと考えたという理論があるが、まだ確認できなかった。

最後はビスケットというキャラクターだ。幻影旅団のメンバーではなく、主人公の仲間だ。ビスケットの格好は可愛く女性的だが、フェイクな格好だ。パワーで格好を変えているので、元の体と顔はすべて違っている。男に「なぜ隠す!？」を聞かせた時、ビスケットは切り札を隠し、「そして何より元の姿がイヤだから!!!」と説明した。元の姿は本当に筋肉質なので、コンプレックスを持って来た。その点は美意識の影響を表していると考えられる。なぜならば、美意識による苦しみを避けるために、時々女性は体を大きく変えなければならないからだ。コンプレックス以外に、ビスケットは可愛い格好を表している、本当に強いキャラクターだ。また、男のキャラクターが隠している理由をまったく分からなかった言葉は、男性は女性の美意識の影響を経験していないので、分からないということを表している。



左: 富樫義博 2003 『ハンターハンター』 週刊少年ジャンプ, 第176章

右: 富樫義博 2003 『ハンターハンター』 週刊少年ジャンプ, 第177章

つまり、富樫先生によって書かれた女性のキャラクターが多様だと考える。というのは、女性的なキャラクターも俺女のようなキャラクターも「ファンサービス」に対して書かれずに、『ハンターハンター』の筋書きのために、役に立っているキャラクターだからだ。また、女性のキャラクターの顔や体が違っている。最後、女性的なコンプレックスがあるキャラクターが存在しているので、美意識の影響を表しており、批判だ。

(b) 男性の表象



¹⁴ 『ハンターハンター』の中で、男性のキャラクターも興味深いキャラクターだと考える。なぜならば、「トキシック・マスキュリティ」(Toxic masculinity)がある男性のキャラクターがあまりいないからだ。「トキシック・マスキュリティ」は有害な男らしさだということだ。「トキシック・マスキュリティ」は男性に対するステレオタイプだ。そのステレオタイプが男らしさの行動や思想を特定している。性差別の一つわけだ。なぜならば、男性がほかの男性と社会に尊敬されたいので、そのステレオタイプは女性差別や性的暴力につながる可能性がある。¹⁵その上、男性の心身の健康被害の可能性もある。

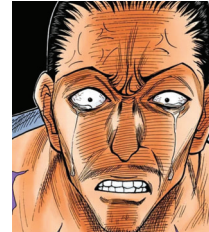
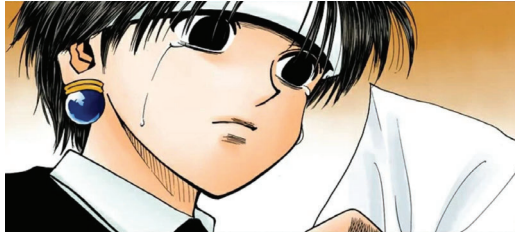
例えば、クロロという幻影旅団の団長とノブナガという幻影旅団のメンバーが本当に強いキャラクターだが、他のメンバーを亡くしたので、泣いていたシーンがある。そのシーンは冗談ではなく、他の強いメンバーに笑われなかった。男性が泣けないという「トキシック・マスキュリティ」の考えと違っている。そのように強い男性が仲間の目の前で泣けるので、他の男性もできる。最後、化粧やハイヒールをはじめヒソカの見目はジェンダーの逆転を表していると考えられる。ヒソカの格好は男性の一般的な格好と違って

¹⁴ヒソカのイメージ: 富樫義博 1999 『ハンターハンター』 週刊少年ジャンプ, 第47章

¹⁵ELEMINIST editor 2021 「性差別につながる「有害な男らしさ」とは ステレオタイプが生み出す無意識のプレッシャー」, ELEMINIST <https://elemminist.com/article/1338>, (参照2025-5-20)

る。例えば、常に化粧をするし、ミドリトップを着るし、ハイヒールを履いている。すなわち、ヒソカは男性的なステレオタイプを倣っていない。

つまり、『ハンターハンター』の男性のキャラクターは「トキシック・マスキュリニティ」に対して、書かれなかった。実生活のように、いろいろな性格がある。強い男性や弱い男性や泣く男性や化粧している男性などが存在している。なぜならば、『ハンターハンター』の男性の表象は「トキシック・マスキュリニティ」のような行動するのが必要ではないことを表していると考ええる。



左(クロロ) 富樫義博 2000 『ハンターハンター』 週刊少年ジャンプ, 第96章
右(ノブナガ) 富樫義博 2000 『ハンターハンター』 週刊少年ジャンプ, 第91章

4. 「ジェンダーアイデンティティ」と「ジェンダー表現」

(a)「ジェンダーアイデンティティ」: 「トランスジェンダー」

「トランスジェンダー」は生まれたジェンダーと異なっている人だということだ。それは「ジェンダー・アイデンティティー」だ。例えば、男性に生まれた女性や女性に生まれた男性だ。そして、「トランスジェンダー」の中には、「ノンバイナリー」もある。男性か女性だけではないジェンダーだということだ。また、他の特別なジェンダーがある。トランスジェンダーの逆は「シスジェンダー」だ。「シスジェンダー」とは「トランスジェンダー」の逆で、生まれたジェンダーと異なっていない人だということだ。

富樫先生の『幽☆遊☆白書』¹⁶というマンガの中で、トランスジェンダーの表象がある。しかし、拙い表象だそうだ。後で、『レベル E』¹⁷の幹久今日子というトランスジェンダーのキャラクターが存在している。そのトランスジェンダーの表象はステレオタイプではないので、『幽☆遊☆白書』のよりよいそうだ。



¹⁸ 『ハンターハンター』のアルカというキャラクターが存在している。13歳の女の子で、格好が女性らしい。キルアと同じ、ゾルディックの家族の子どもだ。しかし、疑いがあるし、トランスジェンダーのアイデンティティーの論理がある。まず、アルカの1番親しい人はお兄さんのキルアだ。第338章の中では、ゴンにアルカを紹介した時、キルアは「いい妹だろ？」と述べた。また、アルカは女の子なので、キルアは同行するバタラーが女性でなければならないと述べた。第322章のタイトルは「兄妹」。すなわち、ゾルディックの兄弟の中には、女性と男性がいる。

¹⁶ 富樫義博 1990～1994 『幽☆遊☆白書』 週刊少年ジャンプ

¹⁷ 富樫義博 1995～1997 『レベル E』 週刊少年ジャンプ

¹⁸ アルカのイメージ: 富樫義博 2011 『ハンターハンター』 週刊少年ジャンプ, 第323章



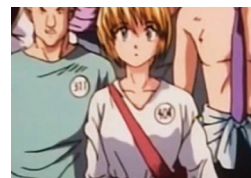
子どもの時、バタラーに「坊っちゃん」と呼ばれた。「坊っちゃん」とは男の子の呼び方だということだ。また、イルミとミルキという1番上のお兄さんに「弟」と呼ばれている。しかし、そのキャラクターはキルアよりアルカに親しくなく、アルカを尊敬していない。『ハンターズ・ガイド』では、38ページにアルカが「キルアの弟」と呼ばれる。そして、ゾルディックの家族の中で、息子しかいないと書かれていた。しかし、そのガイドの中には、いろいろな間違いがある。例えば、ミルキの年齢やノブナガの誕生日などは正しくない。

富樫義博 2012 『ハンターハンター』 週刊少年ジャンプ, 第338章

つまり、アルカの1番親しい人がアルカが女の子と述べたので、アルカのジェンダーは分かりやすいと考える。情報の間違いに対して、本当にトランスジェンダーかどうか確認できない。しかし、他のキャラクターの言葉を見ると、生まれたジェンダーは違っている可能性がある。それは確認されずに、遂に確認されないかもしれない。実生活では、トランスジェンダーの生まれたジェンダーを知るのが重要ではないので、アルカの生まれたジェンダーの確認は本当に重要だろうか。確認ではなくても、アルカは『ハンターハンター』のファンにおそらくアニメの中で、1番よいトランスジェンダーの表象だと言われている。

(b)「ジェンダー表現」：アンドロジナス

「アンドロジナス」のような格好が持っているキャラクターも存在している。¹⁹「アンドロジナス」とは「男女両性の特徴を持っている格好」ということだ。「ジェンダー表現」に関することだ。しかし、「ジェンダー・アイデンティティー」が分からずに、「ジェンダー表現」も確認ではない。



クラピカというキャラクターはゴンとキルアの親しい友達だ。部族を殺した幻影旅団に弔い合戦をしたがっている。ファンに、クラピカは男として見られているが、アンドロジナスのような格好をしている。1999年のアニメのバージョンの一つシーンでクラピカが胸を持っていたので、生物学的に女性をめぐって理論もある。マンガと2011年のアニメのバージョンの中では、胸を持っていない。クラピカの声も甲斐田ゆき²⁰という声優にされているので、アンド



ロジナスの格好をさらに強化しているかもしれない。最後に、第114章の中で、クラピカが長いウィッグを着用した時、クロロに女性として間違われた。すぐに、クラピカは「私がそう言ったか」と述べた。後で、「見た目に惑わされぬことだな」と述べた。他のキャラクターに女のような格好だと述べられているので、アンドロジナスのような格好を確認している。最後、クラピカの言葉を見ると、クラピカのジェンダーは自分のストーリーに関して関係がないので、確認は重要ではない。「見た目に惑わされぬことだな」という言葉は富樫先生のファン

へのメッセージかもしれないと考える。

クラピカとクロロのイメージ: 富樫義博 2001 『ハンターハンター』 週刊少年ジャンプ, 第114章

ネフェルピトーというキャラクターは人間ではなく、キメラアントだ。人間と猫が混ざった格好をしている。小さい胸が見えるが、ネフェルピトーのジェンダーは確認どころかまったく話されていない。ピトーは人間ではないので、²¹



¹⁹クラピカのイメージ: 富樫義博 2000 『ハンターハンター』 Nippon Animation, 第14話

²⁰11月30日 甲斐田ゆきは女性の声優だ。有名な役は特に男の子だ。

²¹ネフェルピトーのイメージ: 富樫義博 2004 『ハンターハンター』週刊少年ジャンプ, 第206章

生物学的や心理的にジェンダーや性別があるかどうか分からない。クラピカと同じく、ストーリーに関係がないので — 特に人間ではないからだ — 確認は重要ではない。最後、カルトというゾルディックの家族の1番下の息子は女性的な格好を持っているが、男の子だ。しかし、アルカと同じく、カルトのジェンダーについてときどき間違いがあるので、女の子だと考えるファンもいる。あまり他の変な点がないので、カルトは男の子かもしれない。



つまり、そのキャラクターを見ると、アンドロジナスのような格好を持っていても、ジェンダーに関係がない。また、ときどきキャラクターの筋書きと関係がないので、確認することは重要ではないと考える。

カルトのイメージ: 富樫義博 2003 『ハンターハンター』週刊少年ジャンプ, 第170章

5. 終わりに

すなわち、ジェンダーの観点を見ると、富樫先生が書いたキャラクターは興味深いと考える。しかし、おそらく自己検閲のため、同性愛の話は明確ではない。理由は『ハンターハンター』は『Trouble Quartet』と同じく、LGBTQIA+のコミュニティだけ向けのマンガではないからかもしれない。少年向けのマンガなので、直接に書かれない。マンガが人気になるために、現在でも、出版社がそれに関して気をつけているかもしれない。同性愛の話があったので、『Trouble Quartet』は発刊されなかった。『ハンターハンター』について同じことが起こらないために、明確な同性愛を書けなかったかもしれない。その理由で、富樫先生はいろいろな点を読者の解釈に委ねていると考える。

また、富樫先生の書き方はジェンダーのステレオタイプに関してではない。強く役立っている女性を書いても、女性への美意識の影響を批判している。ビスケットのコンプレックスを見ると、美意識は強い女性でも影響されていると分かる。また、強い男性でも、気持ちを表し、泣ける表象を見せると、「トキシック・マスキュリティ」の考えが無視できることが分かる。過去の作品を見ると、富樫先生のジェンダーの興味が明らかだ。また、『幽☆遊☆白書』から『ハンターハンター』まで、トランスジェンダーの表象はよくなったので、富樫先生が本当によいジェンダーアイデンティティを書く希望を表していると考え。

興味深い点は、『ハンターハンター』が少年なので、主題は冒険やアクションなので、ジェンダーの話ではなくても、表象は本当によい。「ファンサービス」が少ない少年向けのアニメが清々しいと考える。おそらくその理由のため、『ハンターハンター』を好きな女性が多いかもしれない。私は『ハンターハンターコラボカフェ』へ行った時、いる人は全員女性だったので、驚いた。なぜならば、日本で、少年を読む人は一般的に男性だというイメージがあるからだ。しかし、富樫先生の作品は冒険だけではなく、いろいろなテーマについてマンガなので、特に男性向けのマンガではない。多様なキャラクターやテーマなどのために、『ハンターハンター』を好きな人のプロフィールは確かに違っている。

参考文献

- ウィキペディア 2025 「富樫義博」, *Wikipédia*, 2025-06-12 <https://ja.wikipedia.org/wiki/togashi> ,(参照2025-06-15)
- ウィキペディア 2025 「ジェンダー表現」, *Wikipédia*, 2025-05-07 <https://ja.wikipedia.org/wiki/ジェンダー表現> ,(参照2025-05-20)
- 吉良 智子 2023 「「ジェンダー化された表象」を読解する」『ジェンダー美術史の視点から』, 日本女性学会, p.13-23.
- 佐々木友輔 2023 「地方映画史研究のための方法論(6)「観客」の発見②—ローラ・マルヴィのフェミニスト映画理論」, *Note* <https://note.com/sasakivusuke> ,(参照2025-06-8)
- 少年ジャンプ 「『HUNTER×HUNTER』コミックス一覧」, *Shonen Jump* <https://www.shonenjump.com/list> ,(参照2025-06-08)
- 須川亜紀子 2019 「アニメーション文化55のキーワード」『世界文化シリーズ』, ミネルヴァ書房, p.116-119.
- 絨研新聞社 2018 「<FB用語解説>アンドロジナス 両性具有的なファッション」, *Senken* <https://senken.co.jp/posts> ,(参照2025-05-20)
- ゼブラック 「HUNTER×HUNTERの全話リスト」, *Zebrack* <https://zebrack-comic.shueisha.co.jp/chapter/list> ,(参照2025-06-08)
- 富樫義博 1998～『ハンターハンター』 週刊少年ジャンプ
- 富樫義博 1990～1994『幽☆遊☆白書』 週刊少年ジャンプ
- 富樫義博 1995～1997『レベル E』 週刊少年ジャンプ
- 二宮ゆみ 2022 「相合傘とは？意味や由来&誘ってきた相手の気持ちを解説【イラスト付】」, *Woman.MyNavi*, <https://news.mynavi.jp/woman> ,(参照2025-06-15)
- マグミクス 2025 「考えるけど「もうどっちにせよ好き」読者を惑わせる「性別不明」キャラ3選」, *Dmenu*, <https://news.goo.ne.jp/article> ,(参照2025-5-31)
- 0テレ 「ストーリー」, NTV <https://www.ntv.co.jp/hunterhunter/story/backnumber.html> ,(参照2025-06-08)
- Alanna Duncan 2018 “How queer writers are creating queer genres”, *Electric Literature* <https://electricliterature.com/how-queer-writers-are-creating-queer-genres> ,(参照2025-5-31)
- Anangsha Alammyan 2020 “Why we need more books with queer protagonists”, *Anangsha.me* <https://www.anangsha.me/why-we-need-more-books-with-queer-protagonists/> ,(参照2025-5-31)
- Coleman Clark 2024 “HunterxHunter’s Yoshihiro Togashi proves trans representation takes time to get right”, *Screenrant* <https://screenrant.com/hunter-x-hunter> ,(参照2025-5-31)
- Daryl M. 2025 “Interview with an author: T.J Klune” *Los Angeles Public library* <https://www.lapl.org/collections-resources/blogs/lapl/interview-author-tj-klune-1> ,(参照2025-06-15)
- ELEMINIST editor 2021 「性差別につながる「有害な男らしさ」とは ステレオタイプが生み出す無意識のプレッシャー」, *ELEMINIST* <https://elemminist.com/article/1338> ,(参照2025-5-20)
- Fortiche 2021～2024 “Arcane” *Netlix*
- Goo辞書 「クロスドレッシング(cross-dressing) とは？ 意味・読み方・使い方」, *Goo辞書* <https://dictionary.goo.ne.jp/word/cross-dressing> ,(参照2025-06-15)
- Goo辞書 「心中(しんじゅう) とは？ 意味・読み方・使い方」, *Goo辞書* <https://dictionary.goo.ne.jp/word/心中%28しんじゅう%29/> ,(参照2025-06-15)
- Japan Unwomen 2018 「ジェンダーとは？ジェンダー、性などの基本用語を解説します。」, *Japan Unwomen* <https://japan.unwomen.org/ja/news-and-events/news/2018/9/definition-gender> ,(参照2025-5-20)
- Laura Kay 2023 “Creating Safe Spaces: On Writing Queer Romance”, *Literary Hub* <https://lithub.com/creating-safe-spaces-on-writing-queer-romance/> ,(参照2025-5-31)
- Laura Mulvey 1975 “Visual Pleasure and Narrative cinema”, *Screen*
- L’Équipe de Jolie Bobine 2022 “Voici comment Laura Mulvey a changé la théorie du cinéma avec le regard masculin”, *Jolie Bobine* <https://www.jolie-bobine.fr/laura-mulvey> ,(参照2025-05-8)
- Stephen Carlick 2023 “From Sappho to Stonewall, and beyond : how fictions tells LGBTQ+ history”, *Penguin* <https://www.penguin.co.uk/discover/articles/fiction-lgbtq-history-novels#> ,(参照2025-5-31)